

## 学校経営のポイント

### “図書館”は1日にして成らず

若井 彌一

6月21日夕刻、4日間で計画されたアイオワ大学(The University of Iowa=UI)との協定業務の旅を終えて、成田空港に着いた。

WHOが、新型インフルエンザに関する警戒度をフェーズ5からフェーズ6に引き上げたのが6月11日であり、その後、間もない出発であったので気の重い旅であったが、旅の途中(空港での乗継ぎ)も含めて、マスク使用の人々は散見される程度で、やれやれという心境である。

成田到着後、すぐに新聞で新型インフルエンザの国内感染の動向を確認してみると、日本ではこの1週間に爆発的にではなく、点々とではあるが、確実に広まりをみせていることがわかった。まだ当分の間、各学校では新型インフルエンザへの対応で精神的な緊張と忍耐を要する戦いが続く。冷静に、持久戦を実行したい。

#### 昨夏の大洪水の爪痕

さて、今回訪れたアイオワ大学(UI)は、昨年6月に、未曾有の水害で甚大な被害を被った。広大なキャンパスを車で案内してもらいながら、建物の1階部分の2メートル程度の高さに、洪水の水位を示す線が現在でも生々しく残っているのを見て、洪水がどれほどのものかを想像した。

学長のサリー・メイソン(Sally Mason)女史は「学長からの歓迎」と題する大学案内の冒頭部分で、次のように述べている。「皆さんの多くが知っておりますように、アイオワ大学(the UI)は、昨夏、その歴史上、最大級の挑戦の1つを経験しました。すなわち、2008年の大洪水です。昨年6月以来、私たちは、とてつもない長い道を歩いてきました。」

入学志願者への歓迎の言葉の書き出しとしては、暗すぎる内容のようにも思われるが、これが大学の

責任者としての率直な心境なのかもしれない。

彼女は、学長として2年目に入っているとのことであるが、3万人の学生を擁する総合大学のトップとして、研究者としての謙虚さ、人間としての誠実さ・品位を感じさせてくれる nice lady との印象を強くした。

#### 大学の品格を示す図書館

アイオワ大学は、全米の public university (公立大学)のうち、トップ30以内に入るとされる優良大学の1つである。とくに、アイオワ大学 Hospitals & Clinics は、アメリカのベスト Hospitals の1つに数えられている(U.S. News & World Report, 2008による)。

総合大学であり、キャンパスが広大であるので、各学部等の施設を個別に見学することはできなかったが、車で案内の日程とは別に、翌日、時間を割いて大学の中央図書館を訪問した。

約2時間、図書館の中で、静かに調べものや読書をしている人々の姿を時折眺めつつ、興味のある本を手に取りながら、この大学の歴史をしみじみと実感した。日本、韓国、中国(台湾を含む)関連の文献が、豊富に整理されている。私の勤務校でも読む(見る)ことのできない文献が、よくぞまあこれほどまでに、というくらいに揃えられている。

アイオワ大学に限ったことではないが、図書館はその大学の歴史と品格をもっとも端的に示してくれる存在、いわば「大学の顔」である。中央図書館とは別に、各学部(college)には、それぞれ専門の図書が揃えられているのであるが、教育学部や法学部の図書館を訪問する時間的ゆとりを見いだすことはできなかった。

(わかい・やいち=上越教育大学長)

●最新刊好評発売中! 教育開発研究所【編】 B6判 270頁・定価2,100円 教育開発研究所  
『**教育の最新事情がよくわかる本**』知っておきたい教員としての最新知識!

■好評発売中! 免許状更新講習、「指導改善研修」、新教育課程への移行等の対応は万全か!  
『**教員の養成・免許・採用・研修**』若井 彌一【編著】 A5判 370頁定価3,570円